シーズン真っ盛り

昨年末12月18日に開催された第321回広葉樹銘木市にて落札出来た原木の詳細を表にしてみました。

樹種	写真	産地	備考	樹種	写真	産地	備考
桂		日高 地区 厚賀	最高の産地 日桂とも言う	ナラ		旭川 地区 東京 大学	国内最高の産地
朴		北見地区	色の白い木味	セン		演習林 旭川 区 京 学 報	国内最 高の産 地 ヌカメ の目合
シナ		旭川地区	純白の白さ	キハダ		旭川地区	キハダ 独特の 色合い
イタヤ		地区	疑芯の 少ない 良質材	サクラ	- 501d - 777 - 1 - 6.5j	日高 地区 厚賀	最高の サクラ 色
クリ	760 - 29 - 1 - 0422	北海道 南部 地区	姿形の 良い	イチイ この 樹種は 針葉樹 です		北見地区	少し キズが 有るが 40 センチ 大径木
アサダ	- 31 - 747 - 138	日高 地区 厚賀	元木 一番玉	タモ		ロシア 産 旧材	国内産に無い原木の太さ

入札に負けて入手出来なかった樹種『製材用の用途ではなく、ツキ板の用途の材です。』

人们的一类的 C/CI 国外 3/CI构 E [数约/10~/11/2 C/G/G C/ / 下版中/11/20												
樹種	写真	産地	備考	樹種	写真	産地	備考					
シュウリ	Torn Control	日高	直径	マカバ		旭川	日本人					
		地区	44 センチ			地区	の好む					
		厚賀	の大径			東京	最高の					
			原木			大学演	サクラ					
						習林	色					

超・超原木は高い

私は毎月北海道に広葉樹原木の仕入れに出かけていますが、今シーズンの原木価格が高いことは正直びつくりします。昨年の同時期に服部新聞にも同様の記事を書きましたが今シーズンの広葉樹原木の値段の推移は過去になかったと思います。広葉樹シーズンは九月の末から始まり十月そして十一月とシーズンが進むとある程度値段は落ち着いてくるのです。それが今シーズンはそうではないのです。先月の十二月の広葉樹原木の市は最高潮に達していました。

特に相場の高い樹種はカツラ・マカバ・センの3樹種です。そして良質材の少ないナラ・タモの2樹種。次いで大径原木の少ないホオ・シナの価格も高止まりしたままです。又材質の低下も恐ろしいほど進んでいます。 良質広葉樹原木の価格は大きさつまり径級の太さ。そして外観の美しさ。そして外観から想像出来る中身の 三要素が価格の決定用件なのですが、それ以外の事が値段を下げない要素になっていると私は思います。

一つ目の要素は絶対的な供給不足が解消されないからだと思います。以前は10本の原木が有り10人から15人くらいのバイヤーの間で取引されていたのですが、それが現状は原木の数量が10本から $2\sim3$ 本に減ったのですがバイヤーの数はさほど減ってないのです。

次に考えられるのが、材木業者の販売形態と申しましょうか何か特殊な変化も価格の下がらない要素になっていることも有ると思います。その要素を分析する時大事なことがあります。それが材木屋のルーツを考えることです。

材木屋は凄く特長が有ります。スギ・ヒノキを扱っている業者。アメリカ針葉樹を扱っている業者。広葉樹を扱っている業者と色んなジャンルの材木屋が存在するのですが、それが存在出来ない状況になってきている

のではと私は思っています。木材の流通の中で凄く大きな 役目を果たしてきた材木と言う商売がホームセンター・ ハウスメーカー等の躍進で営業が難しくなってきたのだと 思います。それを証明するものが販売品目の変更だと私は 思います。例えば以前は集成材等の工業化された木材を 主体に扱ってきた材木屋が、目先を変え無垢の商品に販売 商品を変化させて来た事かも知れません。

超・超原木が高いとこの記事のタイトルに書きましたが、最初に価格の高い樹種がカツラ材(右記写真はカツラ原木・日高産)だと書きましたが、この樹種こそがエンドユーザーに最も近づける樹種なのです。

立体の彫刻にも、平面の彫刻にも使えます。模型にも使えます。お皿等の器にも使えるし、お寺の造作にも使える。印の台木にも使えます。凄く応用範囲の多い木なのです。この特徴が有る意味、万人受けするのだと私は思いますが、広葉樹原木の仲間で一番木の見方、製材の仕方、乾燥の仕方の難しい樹種だと私は思いますが、

カツラ材を専門に扱っていない業者から見ると割安に見えるのかも知れません。話を次に進めます。日本人に一番好まれる色の樹種がマカバ材です。この木の最高の現在の産地は東京大学の演習林産の材です。マカバ材の良質材はもう演習林以外はもう残っていません。原木の木口の色だけでも大勢の服部新聞を読んで頂いている読者の方たちも理解出来ると思います。(右の写真です。)

サクラ色こそ最も日本人に好まれる色なのです。写真 のマカバ材は長さ7メーター直径56センチの凄く形も 色も素晴らしい材質の原木でした。大勢の業者の方達が挙 って下見をしていました。私も目の保養になりました。



サクラ色は日本人が一番好む色ですが残念ながらほとんど使われているのはマカバ材だけです。

日本には固有の樹種が有ると何度も服部新聞に書きましたが、先に取り上げたカツラ・マカバ材以外にセン 材・ホオ材も日本固有の樹種です。セン材はヌカメとアラメが有りますが、ヌカメの原木の高いことは本当に

びっくりします。今回運よく2本のセン原木を落札できましたが、9月・10月・11月と凄く多くの物件に応札しましたが、過去三ヶ月は全く札が届きませんでした。今回ももう少しでゼロの可能性も有りましたが、何とか落札できたのです。右の写真は落札出来なかったセン原木を横から見た写真です。少し曲がっているのが解ると思います。しかし木口から見ればヌカメつまり目が凄く細かいのが解ると思います。私は最初の下見の価格から約10%上げて入札に臨みましたがもう10%値段を上げていれば落札出来たのですが、僅かの差で負けました。

次にホオ材ですが、40センチ以上の径級の原木は極僅かですし、又 北海道産広葉樹の銘木市なのに東北材のホオ原木(下記・左の写真)が 出品されているのです。そんな中34センチ上の原木で40センチの原 木に化ける原木を探して下見をしています。皆様は34センチで40セン チの木に化ける原木なんて有る訳無いかと思うかも知れませんが、それは 原木を一本一本丁寧に製材している服部商店だからこそ出来る技術なので す。私の単なる木の見方だけで出来る技術では有りません。服部商店の 製材に携わっている技術者のお陰だと思います。



↑東北産のホオ原木(長さ3メーター直径54センチ)

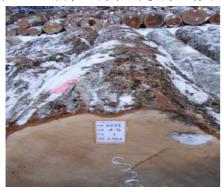
北海道産のホオ原木と東北産材のホオ原木では全く木味は違います。東北産材は凄く青いのが解かると思います。



長さ2.7メーター直径34センチの北海道産ホオ原木↓

北海道産材は色が白いのが解ると思います。北海道の銘木市なのに東北材が出品されているのは、材が集まらなくなってきている証拠なのです。

ナラ材を取り上げるのが後半になりましたが、今回の銘木市は優良材のナラ材は非常に少なかったです。僅か 2 本しか入札する物件が有りませんでした。下の写真(左から 2 枚の写真)は両方共東京大学の演習林の材です。左の材は長さ 4.6 メーター直径 66 センチの原木です。真ん中の材は長さ 4.8 メーター直径 56 センチの原木です。左の材は落札出来ましたが真ん中の材は日本一のツキ板業者が落札しました。一番右の写真は真ん中の原木の上に付いている節の写真です。節が有るのですが価格は左の原木より高いのです。







タモ材は最高級の品質の材は粗ゼロの状態でした。前回の市に出品されていた北海道産材のタモ材の出来は

あまり良くなかったことも市場に影響を及ぼした可能性は 有ります。右記の写真は11月の広葉樹銘木市に出品された 日高産・厚賀のタモ原木です。12月に製材しましたが、 芯の出来はあまり良く有りませんでした。友人も同じよう な事を言っていました。

現在新しいロシア産のタモ材は輸入さていないことも、 市場を盛り上げていないのだと思います。ロシア産材は輸



出関税が今年から 100ユーロ掛か っており上級材は 関税のハンデが有



っても採算は合うが、中間材から下級材は、100ユーロのハンデは 製材工場の採算に全く沿わないから現在国内に輸入されておりませ ん。以上の様な状況で12月の旭川の銘木市に出品されたタモ原木は 春に日本に輸入された古い原木の木口を切った材しか出品されてい ませんでした。左の写真は落札したタモ材です。材の痛みは皮が剥げ た所に干割れが入っています。耳を断つ時多少の歩留まりが悪くなる

ことは承知で、その分安く札を入れましたが、落札しました。輸入元の原価を色んな方たちから聞くと大よその事は解かります。その価格から見ると春から持っていた金利分と作業賃は確実に足らないと言っていました。



シナ材は太い原木が大変少ない現状でした。ロシア産のシナ原木は輸出が制限されています。無い物を考えても仕方がないので、国産のシナ材の良質材を買い求めなくてはお客様の要望にお答え出来ません。ただし30センチ下の原木も多数広葉樹市に出品されていました。私は最低30センチ上の原木で、姿形の美しい中身も良い材を買い付けました。昨年もそうでしたが大阪での製材が四月の下旬以降になると乾燥時に、真っ白に仕上がらない傾向が有るので、今年は三月までに一年分を集めようと考えています。

上の記事では取り上げていませんが、珍しい優良 材が出品されていました。それは直径52センチの キハダ原木でした。今まで出品されていた太いキハ ダ原木は目合いが荒く色も良くなかった為に入札 に参加しませんでしたが、今回参加して何とか落札 出来ました。下の左記の写真は落札した物件の物で すが、少し曲がっているのが解かりますが、木味は 最高の材です。これだけ太いキハダ原木で有りなが ら目の細かい柔らかい材質の木は過去10年に一 度の原木で有ると思います。

立ち木と切った後の比較写真

下記の写真は国立大学法人・東京大学大学院農学生命科学研究所付属演習林北海道演習林の生産係の岡村様から頂いた写真です。立ち木の写真と市に並んでいる写真を比較して下さい。





5233 (795-1) 北海道演習林 79 林北



第 331 回の銘木市に出品されていた東京大学 演習林出品のナラ原木です。立っている姿から 見ると少し曲がっているのが解ると思います。 このナラ原木は長さ4.6メータですが多少伸 びが付いており4.8メーターの長さが有るの で半分に切って製材しようと思っています。道 産ならではの柔らかさが有るので製材するの を楽しみにしています。

乾燥が仕上がる一年半から二年先に、お客様 に本当のナラ色を味わって頂けると思ってい ます。

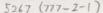
ところで通常量的に出回っているロシア産のナラ原木は多分同じ様な場所に立っていると想像できると思います。

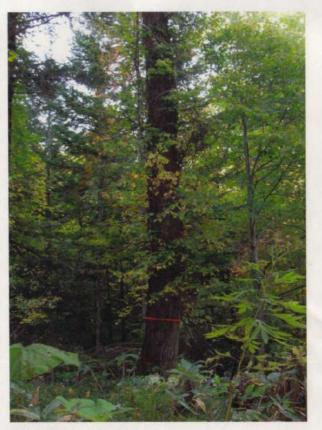
『まさか東京大学の演習林の材が今回の銘 木市にて、手に入れられるとは全く思っていま せんでした。』

立ち木と切った後の比較写真(セン編)

次の写真も国立大学法人・東京大学大学院農学生命科学研究所付属演習林北海道演習林の生産係の岡村様から頂いた写真です。立ち木の写真と市に並んでいる写真を比較して下さい







北海道演唱 林 49 林班



左記のセン原木も先ほどのナラ原木と同じ東京大 学演習林産材です。木味も柔らかく大人しいのが解り ます。この原木の用途は秘密です。凄く繊細な用途に 使われます。現在市中に出回っているセン原木は荒目 とヌカメが有りますが、大半は荒目です。100本有 れば90本まで荒目と言っても可笑しくないと思い ます。きっとお客様は喜んで頂けると思います。

本当の森林とは上の写真のような様子です。この森 林を守るためにも計画伐採の作業が必要な事を忘れ てはいけないと思います。

何も手を入れず自然のままにしておくのではなく森林を調査して守る物は守り、手を入れる物は手を入れるこの作業こそ本当の環境政策だと思います。

* 追伸

演習林生産課の岡村様からお電話を頂き北海道も 温暖化の影響を受け例年より伐採時期が遅くなる 可能性を言われていました。

買い付け原木入荷

昨年12月18日に開催された銘木市の決済は全て現金です。原木を買い付けても直ぐ自分の物になりません。入札の前に保証金を差し入れて、落札後残金を現金決済しなければ大阪に持ち帰る事は出来ません。弊社は早く決済を済ましトレーラー2台にて配送を日本通運に御願いいたしました。皆様のお陰で12月24日に無事到着しました。下の写真がその写真です。運賃も勿論現金です。





製材は1月5日より始めました。

下見を多くする以外に材質の違いを見分ける方法は無い

材質の違いとは凄く難しい表現ですが、材木屋はこの事を簡単 にひとつの言葉で置き換えています。『木味』と言う言葉です。 木味は簡単に言えば色なのですが、これを比べる事は簡単に見 えますが、実に手間の掛かる作業なのです。

右の写真は市の展示場の写真です。夕方四時を過ぎると寒くて 下見どころでは有りません。雪が原木の上を覆い下見をする時 一本一本私は竹箒で雪を落として下見をしますが、雪を落とした ら凄くはっきり見えますが、同業他社にも見られるのです。 落とした雪を又元通りにしたいと思わず思いますが、それをする 時間なんて全く有りません。



カツラ材民材(旧材)



た。赤みが赤腐り状態になっていました。(写真1)

カツラ材民材(新材)



外観はまずまずですが、木口が古くて中身が解りませ | 穴が開いていますが末口の直径はマイナス 4 センチで んのでハツリと言う道具にて木の中身を確かめまし一す。実寸は56センチあります。色は少し濃いですが節 の少ない材質です。(写真2)

上の写真は市に出品されていたカツラ原木です。両方とも国有林からの出品ではなく民有林の材です。私はカ ツラ材の相場が高いのが解っているので慎重に下見をしました。写真1の原木は多分一年以上前に切り出され た原木だと想像できます。時間の経過で木口から変色が入り中身が解りません。しかし木口から幾ら位の長さ の変色が入っているのかを想像するために道具を使って見ました。そして結論を変色は多分 20 センチ位だと 想像しましたが、変色以外に腐りが三日月型に入っているように判定し札を入れませんでした。写真2の原木

は相棒が他に二本出品されていました。一番末の原木が長さ2.4 メーター直径44 せ チ (下記左の原木)。次の中玉が長さ 2.4 メーター直径 48 センチ (下記右の原木)

)。一番元が長さ 2.4 メーター直径 52 センチ(写真 2 の原木)の三本でした。三本共入札に参加してい ましたが、写真2だけ落札しました。他は負けま した。姿形の良さは負けた二本の方が上だと思い

ましたが、私は姿形の少し落ちる原木を落札しま

た。一番上の写真で解ると思いますが凄く多くの原木が出品されているのです。 その中でどれが元玉、どれが二番玉、どれが三番玉と探しながら下見をしていま |す。最後に入札の価格を決定する訳ですが、先月の相場感を思い出しながら慎重

に決めるのです。どのクラスの原木を誰が幾ら位で落札している情報。次に入札する原木は外観が美しいので 競争が多いのかそれとも少ないのか。それほどデリケートな神経を持って参加しています。

私のお客様に出来るサービスはお客様に良い商品を提供するために極当たり前の事をしているだけです。